

短刀 銘 氏貞

法量 刃長 272 mm 反り 2.0 mm 元幅 24.8 (25.9) mm 元重 3.9 mm

形状 平造り、庵棟やや高く、身幅広めに重ね極めて薄く、浅く反る。

鍛 板目に杳交じえ、地沸付いて肌立ち、地景掛かり、幽かな映り立つ。

刃文 表裏揃った浅い大湾れに沸足交え、刃淵沸付き、焼き出しに喰い違いを見せ、焼き落とす。

帽子 浅く乱れこみ、表裏共に激しく沸づいて掃き掛け、沸崩れながら深く返る。

茎 生ぶ、先細って栗尻、棟方刃方とも角、鑢目大筋違い、棟鑢は勝手下り。

本工は「一国氏貞」(重要美術品・藤堂高虎所持)の作者であり、若狭守氏房の兄とも弟とも或いは兄弟否定の諸説がある。

地刃に古調さがあり、造込みは延文貞治姿に紛れる。何れかの古作を模したものであろうか。

